

研究・調査報告書

報告書番号	担当
124	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Serum ethanol levels in patients with moderate to severe traumatic brain injury influence outcome: a surprising finding.</p> <p>中等度から重度の外傷性脳損傷の患者における血清エタノールレベルのアウトカムへの影響：その驚くべき結果</p>	
執筆者	
Berry C, Salim A, Alban R, Mirocha J, Margulies DR, Ley EJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am Surg. 2010;76:1067-70.	
キーワード	
外傷性脳損傷、血清エタノール濃度	
要 旨	
<p>目的： エタノールと中等度から重度の外傷性脳損傷患者におけるアウトカムの関連について調査することである。</p> <p>方法： The Los Angeles County Trauma System database は、14 歳以上で孤発性の中等度から重度の外傷性脳損傷 (Head Abbreviated Injury Score (AIS) 3 以上、他の全ての AIS が 3 以下) の患者を含んでおり、1998 年から 2005 年の間、入院時の血清エタノールレベルを測定していた。</p> <p>結果： 7,304 の患者のうち 3,219 人 (44.1%) が血清エタノール値陽性であった。その血清エタノール陽性患者は、陰性患者と比較して、有意に死亡率が低かった (8.5 対 10.5、$P=0.005$)。ロジスティック回帰分析後も、血清エタノール値陽性は、死亡率減少と関連していた (調整後オッズ比 0.82、95%信頼区間 0.69-0.99、$P=0.035$)。</p> <p>結論： 血清エタノール陽性値は独立して孤発性の中等度から重症外傷性脳損傷の患者において生存率の有意な改善と関連していた。外傷性脳損傷患者における血清エタノールの神経保護的作用については、以前の文献とは対照的であり、潜在的な治療法として留意するに値するものである。</p>	